

姉妹で青年海外協力隊！

a 金山 協子さんと忍さんは、姉妹で青年海外協力隊に参加しました。姉の協子さんは、フィリピンで活動（1年度1次隊 食品加工）したのち、現在は「ふくしま青年海外協力隊の会」（以下FOCA）に所属しています。一方の妹、忍さんは、現在タイへ派遣されています（21年度4次隊 陶磁器）。

妹の忍さんが参加するにあたり、姉の協子さんの影響はありましたか、と協子さんに尋ねたところ、協子さんが帰国後に活動で知り合った友人を訪ねながらアジアやアフリカ、中東を旅行したときに、忍さんも一緒に同行したこと、協子さんが関わるFOCAの活動と一緒に参加したことなどを通して、隊員との関わりが身近にあったことがきっかけになったのでは、と話してくださいました。



後列左から3番目の忍さんと陶芸を学ぶ学生たち

現在活動中！ タイの忍さんからのレポート

バンコクから車で東へ1時間半、国立ブラパー大学があります。生徒数1万人以上という大きな国立大学です。私はここの芸術学部で陶芸の技術指導を行っています。普段タイ語で授業を行っていますが、独特の声調があり、半年たった今でもなかなか上手く発音できません。生徒に発音を教わりながらの、たどたどしい授業です。しかし、生徒はそんな私を慕ってくれます。物作りを通してお互いを知り、言葉だけではない心のコミュニケーションがそこにはあると思います。これからも心で話し、世界を繋げる一端になればと…明日もがんばります！



▲制作中の忍さん

姉の協子さんから 忍さんへのメッセージ

「今度、協力隊の試験に合格しなかったら、もう、受験しない。」と話していた妹が、3度目の挑戦で協力隊の試験に合格し、今年の3月にタイに飛び立ちました。現在、彼女はタイ語のコミュニケーションに苦労しながらも配属先の大学で陶芸を学生達に指導しています。

私と妹は11歳年が離れており、私が協力隊員としてフィリピンで活動していた頃、妹は中学生でした。まだまだ、幼いと思っていた妹が、いつの間にか同じ話題で話合うようになり、協力隊活動に興味を持ってくれたことはとても嬉しいことでした。

そして今、妹から時々電話で、タイの人々と楽しく生活している話や新しい活動の話や聞くと2年後彼女が、どんなふうにな成長して帰国するのが楽しみになってきます。でも、身体には十分気をつけて無事に活動を終えて帰国してくださいね！



◀派遣当時の協子さん



隊員だった頃フィリピンで学生と活動している様子。前列中央が協子さん、左端がカウンターパート。

二本松ちょうちん祭り

に参加しました。

10月4日～6日までの3日間、二本松ちょうちん祭りにJICAブースを出展しました。二本松ちょうちん祭りは360年の歴史を持ち、「日本三大提灯祭り」と言われる伝統ある祭典です。当日は世界地図を用いたクイズ、新聞紙でエコバッグ作り、JICAボランティア秋募集の資料配布を行いました。とくに小中学生同士や親子連れがブースを訪れ、クイズやエコバッグ作りを楽しんでいました。参加者からは「訓練所には行ったことがないが、知るいい機会になった」との声が聞かれました。



世界のクイズに挑戦！



たいこ台が祭を華やかに盛り上げます



異文化の眼

[第9回]

～ふくしまの魅力～

英語 語学講師 ライアン・ピーターズ (オーストラリア出身)

私は、オーストラリアのメルボルン出身です。だいたい400万人ほどの、にぎやかで都会的な場所です。私はすでに福島に暮らして9年になり、福島出身の美しい女性と結婚しました。

なぜ私がここに滞在しているか？私にとって福島の魅力は、さまざまな美しい場所があることと、それらの場所に簡単に行けることです。毎年、私と妻は、偶然ひっそりとした場所を見つけると“自分たちだけ”の場所にします。夏は、ビーチや川沿いなど、暑さを避けて涼しく過ごせる場所を訪れ、泳いでリラックスして1日を過ごします。秋には、車に毛布を詰め込んで、紅葉を満喫し、星空を眺めるためにキャンプに出かけます。冬は、私の個人的な楽しみですが、家族や友人と集まって、温かく過ごすことが好きです。春はその名のとおりに、木の下に毛布を広げ、

新しい季節の訪れと暖かさを感じるため、新しい場所へ出かけます。

オーストラリアの家族や友人、ミートパイが恋しくないといたら嘘になります。しかし福島にいながらにしてオーストラリア人であることができると感じています。私たちは友人たちとクリスマスを祝い、クリケットの試合を見て、バーベキューを楽しみます。

私は、この美しい福島県で、もっと新しい場所を開拓し、新しい人々に会うことを楽しみにしています。

(原文：英語)

オーストラリア連邦 Data

面積：約769万平方キロメートル
(日本の約20倍)
人口：約2,215万人
首都：キャンベラ
言語：英語
通貨：豪州ドル



メルボルンのターミナル、フリンドース駅



メルボルンにある戦争慰霊館



福島県在住 OB OG 体験記

[第9回]



～モロッコでの新しい発見～

平成19年度第3次隊 モロッコ・体育室井 研一 (郡山市在住)

私が派遣された国は、アフリカ大陸の北西に位置する中東の国「モロッコ」でした。アフリカ大陸では教育の水準も比較的高く、小学校・中学校は義務教育として確立されていました。

しかし、大学まで何不自由なく勉強できる環境にあった私にとって、モロッコの小学校・中学校というのは衝撃的でした。1冊のノートだけで全教科の授業を受けていたこと、教科書は卒業生のお下がり、ボール2個を40人の生徒で使う体育、卒業後の進路は特になし、日常的に止まる水道…などなど。

赴任当初、そんな現状に戸惑いはありましたが、日を追うごとにそれらの戸惑いは消え、この現状をたく

さんのモロッコ人と楽しもうという考えに変わっていきました。

「無いなら作ればいい」、「出来ることからやっていこう」という考えは、私がモロッコで活動していた2年間、多くのモロッコ人と学んだことです。

私が学んできた「教育」、モロッコ人の同僚・子どもたちが学んできた「教育」、違いはあれど、それぞれの視点から「教育」を見つめることで新しい発見をし続けることができました。



▲ 教育キャラバン活動で学生に音楽を教えている様子

◀ モロッコの体育教師と一緒に (筆者後列左端)

福島県出身のJICAボランティア 平成22年度第3次隊

二本松青年海外協力隊訓練所では177名、長野県にある駒ヶ根訓練所では225名のボランティアが10月7日(木)に派遣前訓練を開始しました。

※紹介欄にあるJOCVとは「青年海外協力隊」、SVとは「シニア海外ボランティア」のことです。

■ 二本松訓練所



JOCV 小林 慎治
出身地：白河市
派遣予定国：モロッコ
職種：体育

今ここにしていることができるのは、これまで私を支えてくれた人たちがいたからです。感謝の気持ちを忘れずに、現地で必要不可欠となることをこの訓練で学び、任国の体育教育普及のために根付くような活動をしてきます。



JOCV 吉田 志保
出身地：福島市
派遣予定国：モロッコ
職種：村落開発普及員

途上国の現場を見たいと思い応募した協力隊に参加できること、また二本松訓練所で同じ志を持った仲間と一緒に学ぶことを、とても嬉しく思っています。この貴重な機会を今後最大限に活かせるよう、現地でも積極的に肌で感じて、常に学ぶ姿勢を持って活動していきたいと思っています。

■ 駒ヶ根訓練所



JOCV 馬上 学
出身地：いわき市
派遣予定国：セントビンセント
職種：野菜栽培

訓練所では、任国での活動に必要な不可欠な語学力、国際協力に対する姿勢、異文化適応力、健康・安全管理能力などの理解・習得に向け、様々な講座や授業を受けています。様々な方々のご支援により、この研修を受講させていただいていることを常に念頭に置き、任国の方々のため、帰国後の社会還元のために一日一日を大切に過ごしたいと思います。



JOCV 眞岡 千佳
出身地：白河市
派遣予定国：インド
職種：日本語教師

わたしの朝はヒンディー語の自主練習から始まります。11月からは日本語を交えず英語でヒンディー語の勉強をしようかと、同じくインド派遣の友人と計画しています。特等席(=最前列の中央の席)で受ける講義や少人数での英語の授業など、貴重な機会をいただき感謝しています。たくさんの方々のことを吸収し、今後の活動に生かしていきたいです。



JOCV 内山 光晴
出身地：福島市
派遣予定国：セネガル
職種：村落開発普及員

訓練所では、語学訓練を受けています。ここでは同じ志を持つ多くの仲間と出会うことができ、刺激のある毎日を送っています。2年間の活動終了時に私が来てくれて良かったと言ってもらえるような隊員を目指したいです。



JOCV 安彦 健一
出身地：桑折町
派遣予定国：セントビンセント
職種：美術

派遣予定国のセントビンセントは、南米カリブ海の小さな島国です。その国で私は美術を教えます。美術の授業を正式に受けた事がない子供達に美術の楽しさを伝えながら、自分自身も成長できるように頑張りたいと思っています。



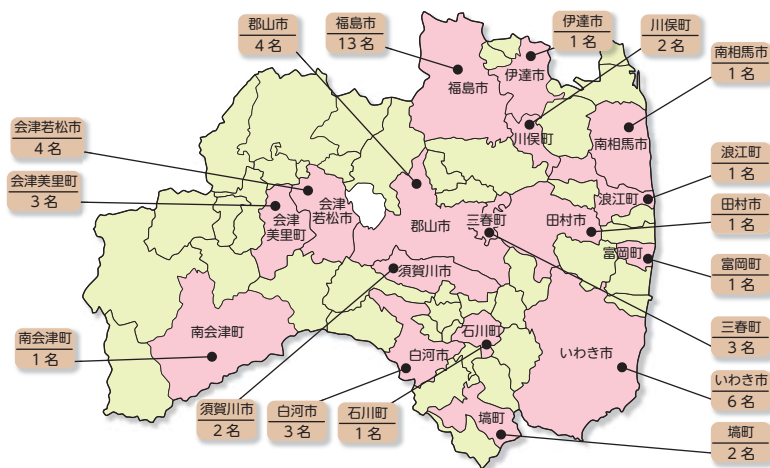
JOCV 清水 聡子
出身地：本宮市
派遣予定国：モルディブ
職種：音楽

毎日、任国で話される英語を勉強しています。英語に加えてディヴェヒ語も使われているということなので、モルディブに行く隊員同士で少しずつ練習しています。任国の方と音楽を通して言葉と心が通じることを目指してがんばりたいと思っています。

福島県出身 JICA ボランティア 2010年10月6日現在 (派遣中)

福島県出身 JICA ボランティア人数
合計派遣中 49名 / 累計 525名

青年海外協力隊員数			
派遣中	42名	累計	485名
シニア海外ボランティア数			
派遣中	7名	累計	27名
日系社会青年ボランティア数			
派遣中	0名	累計	9名
日系社会シニアボランティア数			
派遣中	0名	累計	4名



11月～1月の イベント情報

11月 8日(月)	JICAボランティア 平成22年度秋募集 応募締め切り
11月 22日(月)	ふくしまグローバルセミナー2010申 し込み締め切り ←右にポスター
12月 9日(木)	平成22年度第3次隊 派遣前訓練修了
12月 11日(土)～ 12日(日)	ふくしまグローバル セミナー2010
12月 13日(月)～ 17日(金)	平成22年度第3次隊 出身地自治体 赴任前表敬挨拶
1月 7日(金)	平成22年度第4次隊 入所式
1月 22日(土)	派遣中ボランティア留守家族連絡会・ JICAボランティア帰国報告会

FUKUSHIMA GLOBAL SEMINAR 2010

2010年12月11日(日)12:30～12月12日(月)13:30

会場 JICA二本松 (福島県二本松市)

「ふくしまグローバルセミナー2010」は、国際交流・国際協力・多文化共生・国際理解教育・防災教育についての参加型セミナーです。外国出身者などによる相互紹介や国際能力開発レポートなど1日の幅広い内容の企画があります。

対象者 一般(高校生以上)

定員 150名 (申し込み状況により、変更の可能性があります)

申込 平成22年11月22日(月)必着

参加費 一般 5,000円 高校生・大学生 3,500円 (別途1日当り交通費がかかります)

福島県国際理解教育ネットワーク (主催)

主催者 福島県国際理解教育推進委員会、財団法人福島県国際交流協会、JICA二本松(後援)、財団法人国際能力開発センター(協賛)、二本松市(後援)


セミナーの事前準備については、国際理解推進センターのホームページをご覧ください。
【国際理解推進センター】

●情報発信の場として
グローバルセミナーは、被災地・被災者の復興活動として認定を受けていますので、被災地・被災者の活動の場となります。

ふくしま
グローバル
セミナー
2010

JICA二本松で
世界を学ぼう。

参加者募集!



ふくしまグローバルセミナー2010 参加者募集!

日時 12月11日(日)12:30～12日(月)13:30

会場 JICA二本松

対象者 一般(高校生以上) 150名

費用 一般5,000円 高校生・大学生3,500円

締め切り 11月22日(月)必着

応募方法: 福島県国際理解教育推進委員会、郵送、FAX、Eメールでお申込ください。

着任のお知らせ

JICA 二本松青年海外協力隊訓練所
業務課長 吉村 悦治



8月末に南アフリカ共和国から帰任し、JICA二本松に着任しました。JICA入構以来、初めてのボランティア及び市民参加協力事業に携わることになり、楽しみです。福島県は全くの未経験者ですので、どうぞ皆様、「うつくしま」の見所・楽しみ方、教えて下さい。よろしくお願いいたします。



毎年10月にはジャカラダの花が満開となる
(南アの首都プレトリアにて)

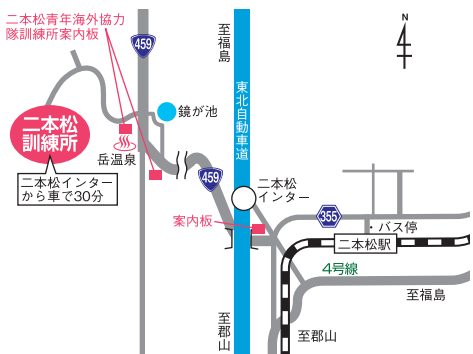
ワールドカップ見聞録

日本チームが善戦した、南アフリカ共和国で今年6月に開催された2010年FIFAワールドカップ。現地で観戦する機会に恵まれましたが、南ア特有の応援アイテム、「ブズゼラ」についてご紹介したいと思います。現在、使用されているブズゼラは全長60センチほどのプラスチック製のラッパの一種ですが、その起源には諸説があり、宗教用の民族楽器とも言われていますが確かではありません。このブズゼラ、構造は単なる筒なので、トランペットのように唇を振るわせるなど少なからずテクニックが必要ですが(残念ながら不器用な私は上手く吹けませんでしたが)、非常に大きな音が出て、ワールドカップのスタジアムで数万人規模の観客が吹き鳴らすと、隣とも話が出来ないくらいの凄まじい音量となります。実際、試合中の選手はコーチの指示や審判の笛が聞こえないので使用禁止を求めたほど。よく出来たもので、観客相手には、ブズゼラ対策のための耳栓まで売っています。賛否両論のブズゼラですが、南アの風物詩の一つであることは間違いありません。日本で待つ息子のリクエストに応じて、ブズゼラをいくつか持ち帰りましたが、日本ではさすがに近所迷惑になるので吹けませんね。あの騒がしい音、今では懐かしい思い出です。



ブズゼラを片手に応援する
南アフリカチームのサポーター

読者の皆様へ 福島県内の小・中・高・大学等、会社、団体で行っている国際協力活動を紙面でご紹介します。情報をお寄せください。



JICA二本松へのアクセス

独立行政法人国際協力機構
二本松青年海外協力隊訓練所

E-mail : jicanjv@jica.go.jp
〒964-8558
福島県二本松市永田字長坂4-2
TEL : 0243-24-3200
FAX : 0243-24-3214

◆本誌、バックナンバーがご覧になれます... ※皆様からのご意見等をお待ちしております。
URL <http://www.jica.go.jp/branch/ntc/jimusho/newsletter.html>

本誌に関わるご意見・情報の連絡先
国際協力推進員 清海陽子 財団法人福島県国際交流協会 JICA デスク
〒960-8103 福島県福島市舟場町2-1 福島県庁舟場町分館2階
TEL:024-524-1315 FAX:024-521-8308
Email:jicadpd-desk-fukushima@jica.go.jp

